

基本構想検討シート

テーマ：子どもの未来と文化をはぐくむまち　～活力ある学校づくり～

10年前の書きぶり（4次長計）			5次長計	
構想レベルの課題	構想レベルの方針	方針に基づく基本事業（参考）	以下、「施策の評価・検証」、「基礎調査データ」、「市民・団体アンケート」等より課題などを抜粋しています。	今の課題、方向性に対するキーワードは
① 次代を担う子どもたちが、将来にわたって主体的かつ社会の変化に柔軟に対応していくための幅広い知識と教養を身につけ、学ぶことの楽しさを知り、豊かな人間性と健やかな身体を養い、たくましく成長することができる学校づくりをめざします。	・次代を担う子どもたちが、社会の変化に柔軟に対応できる幅広い知識と教養、技能を身につけられるよう、きめ細かい指導を行い、基礎学力と体力の向上をめざした学習指導の工夫・改善、教員の資質・能力の向上を通じて、活力ある学校をつくれます。	☐人権尊重と健やかな心と体の育成 ・人権尊重の理念を基盤とした教育の推進 ・道徳教育の充実 ・いじめを防止する教育の推進 ・防災教育の推進 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・体育・健康教育の推進 ・食に関する教育の推進	・市立全校で人権に関する教育活動を実施した。 ・いじめ問題対策基本方針の見直しを行い、教育委員会や学校の対応の明確化を図った。 ・神宝小学校がパラリンピック競技応援校として、国際パラリンピック委員会公認教材の授業実践を行った。 ・学力の傾向は、ほぼ全国的な傾向と同様で、国語では言語に関する事項、算数・数学では関心・意欲・態度が学年を追うごとに低下している。 ・「くるめ産給食の日」を実施し、幻の小麦・柳久保小麦や地場産野菜を使った給食を提供した。市内複数校において、地場産野菜の生産の様子や郷土食について地域人材から学ぶ活動を行った。 ・中学校において教員が推薦する図書 100 冊をまとめた「東久留米の道標」を発行し、学校図書館の活用の活性化を図った。 ・主任教諭 2 年目以上の職員を対象に、学校マネジメント講座を開催し、学校経営に参画する意識の向上を図った。 ・特別な支援を要する児童・生徒への対応をよりきめ細かく行うために、就学・転学・転級判定の在り方を見直した。 ・小・中学校の校舎棟及び体育館の耐震化が 100%図られた一方で、施設の老朽化に伴う大規模改修については未実施の学校もあり、損耗やさまざまな機能低下を引き起こしている。 ・トイレの洋式化や猛暑対策として特別教室へ空調機を設置していくなど、良好な教育環境を整える必要がある。	ご意見を準備していただくためのメモ欄です ■人権尊重と健やかな心と体の育成では、 ■確かな学力の育成では、 ■信頼される学校づくりでは、 ■このテーマに欠けている視点は、
	・保護者、学校、地域が互いの信頼のもとに連携し、子どもたちの成長を支援します。	☐確かな学力の育成 ☐信頼される学校づくり ・学校が一丸となって充実した教育活動を行うことのできる組織づくり ・地域と連携した教育活動、学校と地域との連携を推進 ・子どもたちや保護者に信頼される教員の育成 ・特別な支援の必要な子どもたちが専門的な教育を受けられる体制の整備 ・小学校給食の調理業務委託の推進 ・児童・生徒が安心して学ぶことのできる環境の整備 ・通学路の安全確保 ・小・中学校の適正規模・適正配置	・市立小学校の児童数は、平成 29 年は 5,545 人で、平成 25 年からの推移は減少傾向にある。 ・市立小学校の教員数は、平成 29 年は 321 人で、平成 25 年からの推移は横ばいとなっている。 ・市立小学校別児童数は、第五小学校が最も多く、下里小学校が最も少ない。 ・市立中学校の生徒数は、平成 29 年は 2,699 人で、平成 25 年からの推移は横ばいとなっている。 ・市立中学校の教員数は、平成 29 年は 176 人で、平成 25 年からの推移は横ばいとなっている。 ・市立中学校別生徒数は、久留米中学校が最も多く、東中学校が最も少ない。 ・33.9%の市民が市の目指すべきまちの姿として「子どもを大切にする、子育てや教育の充実したまち」と答えた。 ・本施策に市民の 16.6%が満足、21.2%が満足していない。 ・本施策を市民の 76.6%が重要と考えている。 ・市民が考える優先すべき取組みとして、「いじめ問題への対応」、「豊かな心を育む教育の推進」、「個性を認め合う教育の推進」の順で高くなっている。	

このテーマについて現状の課題などを書き出してみると・・・